

テーマ

損失を経営上のメリットに

適用  
分野

税務会計・財務会計・  
法人税法（租税法）

研究  
名称

企業経営とタックス・インセンティブ

氏名  
所属

古田美保 教授  
経営学部経 営学科

内容

### ●特徴

企業経営につきものの損失は上手にマネジメントすれば武器になる！

### ●研究内容

企業経営、特にプロジェクトの初期段階においては、損失は回避し得ないものです。もちろん、長期的には投下した資本を回収し、利益を得るように努力しなければなりません。それでも損失が計算されてしまう可能性を排除できるものではありません。損失とは、企業経営にはつきものであり、しかもできれば回避したいものであるといえるでしょう。しかし、税務計算の観点からすれば、損失すなわち欠損金は納税額を減額できるクーポンともいえるのです。

欠損金とは、一会計期間の所得計算上、支出（損金）が収入（益金）を上回った場合のその差額を言います。マイナスの所得、とも言えます。欠損金が計算された場合、その年度の法人税額はゼロとなり、かつ、次年度以降の所得の額から控除することができます。この処置自体は至極当然のことであり、

納税者の当然の権利なのですが、最近では、この権利を他の組織体に移転したり、他の組織体の所得の控除要素として使うことが、条件付ですができるようになっています。たとえば、組織再編税制や連結納税制度を活用したり、米国LLC（有限責任会社 Limited Liability Company）を参考に作られた日本版 LLC・LLP（有限責任組合 Limited Liability Partnership）という新しい事業組織体を活用したり、といった具合です。制度の趣旨を理解し、上手に活用すれば、欠損金は企業経営上プラスに使うことができます。新規プロジェクトを立ち上げたりアライアンスをはじめたりという場合には、ぜひ検討するべきでしょう。

欠損金の活用が、企業経営を左右することにつながるかも知れません。



将来の所得減算に利用？

他の組織体の所得減算に利用？

他の組織体に譲渡する？

キーワード

法人税 税務 欠損 LLP LLC 連結納税 タックス・インセンティブ

連携方法

■ 講演 ■ 研修 ■ 研究相談 ■ 学術調査 ■ コメント ■ 共同研究



## 内容

## ●特徴

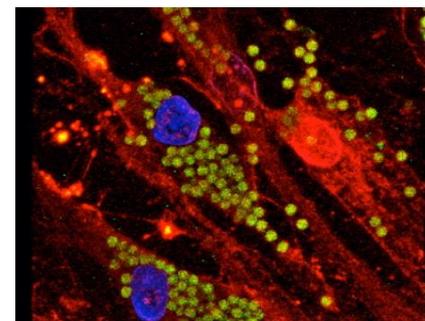
皮膚は、表皮と真皮から構成されています。表皮は皮膚の表面で、外界からの刺激や異物の侵入を防ぐバリアとして重要であり、真皮は皮膚の弾力を保ち、表皮や毛包、汗腺などを支える構造として重要です。真皮は、線維芽細胞とそれが分泌するコラーゲンやエラスチンといった弾性繊維が作り出す構造で、線維芽細胞は、古くなったコラーゲン繊維を食べ、また新たにコラーゲン繊維を作り出すというサイクルでお肌の恒常性を維持しています。また老人性色素斑に真皮線維芽細胞の影響が大きいことが分かり始めています。この線維芽細胞を活性化すれば、いつまでもお肌ピチピチ&美白！アンチエイジング。

## ●研究内容

皮膚線維芽細胞は、免疫系のマクロファージ同様に高い貪食能を示します。当研究室では、線維芽細胞の貪食能を簡便にかつ定量的に評価できるアッセイ

系を開発しており、それとともに遺伝子発現パターンや組織構造の変化など、多角的な解析を行うことにより、皮膚の健全性を評価することで、天然物質や様々な薬剤の機能評価を行うことができます。

また、線維芽細胞におけるコラーゲンやコラーゲナーゼなどの遺伝子発現や色素粒の貪食活性などの調節メカニズムの詳細を解明することで、健康・医療・美容分野への応用を目指しています。



線維芽細胞（赤）がビーズ（緑）を大量に貪食している様子。青は核。

研究室URL： 分子細胞発生学研究室  
[https://www.konan-u.ac.jp/hp/FIRST\\_nisikata/index.html](https://www.konan-u.ac.jp/hp/FIRST_nisikata/index.html)

<https://www.konan->

ヒトの健康科学研究所 (RIH2S)  
<https://www.konan-u.ac.jp/hp/rihhs/index.html>

<https://www.konan->

## キーワード

線維芽細胞、角化細胞、貪食能、瘢痕、創傷治癒、老人性色素斑、コラーゲン

## 連携方法

■ 講演 ■ 研修 ■ 研究相談 □ 学術調査 ■ コメント ■ 共同研究